

# 令和7年度第2回青森市廃棄物減量等推進審議会

## 会議概要

### 1 日時

令和7年11月13日（木） 10時00分～10時40分

### 2 場所

青森市福祉増進センター（しあわせプラザ） 2階 研修室

### 3 出席者

#### 【委員】

佐々木委員（会長）、青山委員、一戸委員、鈴木委員、竹中委員、三津谷委員  
（西田委員、森委員が欠席し、8名中6名出席）

#### 【事務局】

環境部 佐々木部長、齊藤次長

廃棄物・リサイクル課 阿部課長、松原主幹、日渡主幹、平井主査、佐藤主事

浪岡振興部市民課 熊谷課長

### 4 会議の公開、非公開の別

「青森市附属機関の設置及び運営に関する指針」に基づき、会議は原則として公開することとしており、当審議会においても公開とした。

### 5 会議内容

#### （1）令和7年度第2回審議会

##### ①開会

##### ②審議「青森市一般廃棄物処理基本計画（骨子案）について」

配付資料「資料1：次期「青森市一般廃棄物処理基本計画（骨子案）」について」、  
「資料2：次期「青森市一般廃棄物処理基本計画」の構成イメージ」を事務局から説明を行い、委員から意見・質問等をいただいた。

##### ③閉会

### 6 会議要旨

#### （委員）

○青森市浪岡地区のごみ処理に関して、黒石市と分かれるが、今後の方針について、数値や計画をどのように考えているのか教えてほしい。

○以前、青森市清掃工場では、浪岡地区分のごみの量が入らないという話があり、直近10年は浪岡地区を含めた青森市全体で青森市清掃工場の計画処理量を上回っているのではないかと思います、質問した。

**(事務局)**

○この計画は、青森市域から排出されるごみの処理方法を決定するものであり、浪岡地区のごみも含めて市全体のごみを一括して管理する計画を立てることとなる。

○令和6年度の実績では、青森市清掃工場に浪岡地区のごみを受け入れてもなお、約6千7百トンの余裕があること、また、一人一日当たりのごみ排出量も資料1で示したとおり順調に推移していることから、浪岡地区のごみを受け入れることは可能と判断している。

**(委員)**

○資料2の内容によると、3-9ではプラスチック使用製品廃棄物の分別収集について触れられているが、国の5次計画でも「3R+」という方針が示されており、「+」はプラスチックを再生可能な資源に代替することを意味している。県や市町村の分別収集とは少し違うのかなと思っていたが、法律の流れを見ると、「プラスチック循環促進法」や「再資源化事業等の高度化に関する法律」などを通じて、国はプラスチックを集めて再生し、再利用を促進しようとしている。実際に市町村レベルで収集されたプラスチックが、国の計画や方針にどのように組み込まれていくのかについて、様々なリサイクルルートが存在しており、現時点ではその進展や結果について確定的に予測できない状況だと思うが、プラスチック使用製品廃棄物も含めた分別収集の推進は非常に有難いと感じている。弘前市や八戸市の周辺地域でプラスチック製品廃棄物の収集活動が新聞報道されており、青森市でも同様な取組が進められるということで、非常に安心と考えている。

**(委員)**

○基本方針3の市有廃棄物処理施設の耐震化・老朽化対策の推進について伺います。海沿いに位置する企業は、津波ハザードマップが公表され、従来の対策が通用しなくなるなど大きな影響を受けており、その対策を考え、進めることが非常に大変である。基本方針3に含まれる廃棄物処理施設は、具体的にどの施設であり、津波に対する影響を考慮しながら、施設の維持管理や対策を進めていく必要がある施設はあるのか、教えてほしい。

○現在の耐震基準や状態については、特に改善が必要な箇所はないと考えてよいのか。

**(事務局)**

○資料1の基本方針3の施策6に記載のとおり、対象となる施設は鶴ヶ坂にある青森市の一般廃棄物最終処分場と清掃工場である。津波に関する特別な対策は必要ないと考えている。

○清掃工場の建物は問題ないが、一般廃棄物最終処分場は昭和58年供用開始であり、経年劣化が進んでいる。今後のために対策を検討する必要があると考えている。

#### (委員)

○1点目として、桜川団地では、その他のプラスチック回収に出すネットに関して、係を決めて有料で出してもらっていたが、高齢化や賃金の低さにより担当者が減少している。これにより、当番制にしたところ高齢者から負担が重すぎると苦情が出ており、また、なぜその他のプラスチックの回収を行うのかについても理解が不足している。さらに、出す際のルール違反が多く、後始末のため、当番の負担が増し、やりたくないという状況に繋がっている。この状況は他の地域でも見られ、カラス被害も発生している。なぜこの取組が必要なのか、その目的やメリットを市民にしっかり伝えることが重要だと考えている。

2点目として、事業所からごみが大量に出ている。具体的には、アウガの職員向けに販売されているお弁当の空容器が使い捨てであることや、レジ袋の過剰使用、燃えるごみの分別不足などが問題点として挙げられるが、レジ袋の削減やごみの分別徹底等を行うことにより、ごみの削減ができる良い機会となると思われる。市職員が率先してごみ減量の取組を推進してもらい、その成果をモデルケースとして市民に報告することで、住民の意識や取り組みやすさが向上し、やる気が高まると考える。青森市のイベントでは、ごみのポイ捨てや分別不足が問題となっており、特にねぶた祭ではごみステーションが設置されていないことが課題だと思う。この前、行われたマルシェのように、設置している例もあるが、ごみの減量を意識した取組は十分でないと思う。特にあおもり環境フェアでは、弁当容器などが大量に廃棄されていたが、蓋と容器を分けて嵩を減らす工夫やマイボトルの推奨など、イベントを活用して、ごみ減量の意識向上と実践を進めることが重要だと思う。

3点目として、生ごみ処理機の貸出や段ボールコンポストの講習会などの取組がすでに実施されているが、青森友の会という団体も、生ごみ減量のための活動を展開しており、アウガの駅前スクエアで行われたイベントで会員が生ごみ減量の方法の実践例を発表するとともに、市の取組を利用した乾燥機の利用や水分を絞る工夫などを紹介し、減量方法を記載したチラシを配布していた。こうした団体の活動を広く知ってもらうことで、地域住民にとって参考になり、自分もできると感じるきっかけになると感じたので、ぜひ多くの人に見てもらいたいと思った。

最後のポイントは、今年度から始まったボランティアごみ袋制度について、長年の要望が叶ってとても嬉しく思っている一方で、申請や報告の手続きが煩雑で使いにくいと感じている。特に支給枚数が、可燃ごみの袋は参加者の3分の1、不燃ごみの袋は参加者の6分の1であり、私のように毎日ごみを拾っている人には使えない制度というのがわかり、残念に思った。使えそうな団体には周知を行っているが、制度の改善や使いやす

さの向上が必要だと思う。八戸市のクリーンパートナー制度のように、登録者にごみ袋の提供や清掃道具の貸与、回収サービスを行う仕組みを参考に、青森市でもボランティアのごみ拾いを促進する仕組みづくりを望む。

**(会長)**

- 委員から他市や市の他団体の取組について紹介があり、市の広報活動や職員の弁当販売、その容器の処理など、様々な状況を踏まえて検討してほしいとの意見があり、また、ボランティアによるごみ袋の配付方法についても、改善の余地があると指摘されているので、考えていただければと思っている。事務局の意見を教えてほしい。
- ごみの減量を促進するため、PR活動を強化し、特に生ごみ処理機の貸出し申請書類を簡素化し、気軽に利用できるようにして、普及を図ることが重要である。さらに、その他プラスチックの不適切な廃棄（納豆容器やマヨネーズ容器を洗わずに捨てるなど）が依然として見られるため、清掃ごみ等の広報活動を工夫することが、市民の意識向上に繋がると考えているので、その辺の工夫を事務局にお願いしたい。

**(事務局)**

- アウガでの弁当容器の分別については、洗浄すれば容器包装プラスチックとして回収できるものの、徹底されていないため、庁内で周知させていただきたい。
- また、マヨネーズや納豆の容器など汚れたプラスチックの出し方については、現在、浪岡地区では燃えないごみとして埋め立てているが、来年度からは、燃えるごみとして出せるルールに変更されるため、改めて住民への丁寧な説明が必要だと考えている。
- 最後に、イベントのごみステーションや段ボールコンポスト、ボランティアごみ袋の配付の仕方などの取組については、今後事務局で検討させていただきたい。

**(委員)**

- ほとんどの人は自宅ではきちんと分別して綺麗にごみを出している。しかし、イベント時にはそのような分別や片付けが徹底されていないことから、普段のごみ出しの良い習慣をイベント時にも促すために、イベントちらしに啓発部分を入れるなどの工夫が必要。
- 日本人のサッカーサポーターのように、試合後に皆でごみを片付ける姿勢を見習うべきだと思う。自分自身も含めて、普段からの意識や行動を改める必要性を感じている。

**(会長)**

- 今後のイベント等について、他団体や実施している状況を確認しながら積極的に参加し、分別等の適切な対応や意識の醸成を進めてほしいと思っている。一度に全てを完璧に行うのは難しいので、出来ることから取り組んでほしいと思うので、事務局にはよろしくお願いしたい。

**(委員)**

- まず、ごみの分別が十分に行われていないケースがあり、これを改善するためには、分

別に参加していない人々に対する啓発活動が重要であると感じる。次に、ごみの排出量削減には、生活系と事業系の両方の対策が必要となるが、現行の案では事業系の啓発や対策が十分に示されていないと感じる。特に、イベント等を含めての事業の場でのごみを削減させるような啓発の取組を明確に示すことが望ましい。

**(委員)**

○マイボトルの推進について、少しずつでも実施していくことが良いと考えている。例えば、青森市の水道水をイベントで提供し、参加者が水を持っていく仕組みを作ることで、環境に優しい取組になると思う。こうした取組は少しずつできることから始められるので、検討をよろしくお願いしたい。